

平成 21 年度臨時（第 3 回）理事会議事録

日 時： 平成 21 年 11 月 21 日（土） 13：30～17：00

場 所： 福岡小戸ヨットハーバー2階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、秋山雄治、河野博文、西岡一正（委任：山崎達光）、植松真、前田彰一、児玉萬平（委任：山崎達光）、斉藤渉、鈴木國央（委任：山田敏雄）、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、小山利男、外山昌一、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、吉田豊（委任：坂谷定生）、宮崎史康、中村公俊（委任：前田彰一）、奥村文浩（委任：前田彰一）、吉留容子、金井寿雄（委任：山崎達光）

以上 25 名、内委任状 7 名

欠席理事：青山篤、豊伸吾

以上 2 名

出席監事：栗原博

以上 1 名

欠席監事：高木伸学、浪川宏

以上 2 名

オブザーバー：戸張房子国際委員長、増田開ルール委員長、大谷たかを国際委員会委員、中村健次オリンピック特別委員会委員、松山和興佐賀県連理事長、本吉譲治テザークラス協会会長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 25 名（内、委任状 7 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光が議長となり、平成 21 年度臨時（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、坂谷定生、宮崎史康の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）山崎会長から、①福岡での理事会開催の御礼があった。②財政健全化でメンバー増強に取り組んでいただいているが、引き続き各理事のご協力をいただきたい。③ロンドンオリンピックに向けて、一層の強化を図っていただきたい。④ジュニア問題でのスポーツマンシップ論議は重要で、セーリングを生涯スポーツとして捉えていただき、ジュニアから社会人までセーリングをできる環境が大切である。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 22・23 年度評議員の選出について

庄司理事・総務委員長から資料に基づき、平成 22・23 年度評議員選出について提案があった。平成 22・23 年度評議員の選出は、平成 16 年 9 月施行の財団法人日本セーリング連盟評議員選出規程に基づき実施する。選出数・選出母体および人員数・評議員候補資格・選出方法の変更は前回同様とする。選出スケジュールについては、資料の通りで、平成 22 年 2 月 20 日の理事会にて評議員を選任する。

前田専務理事から、新規加盟した特別加盟団体（クラブ等の団体）は、選出団体グループに入れず保留とした。新公益法人改革を見据えて、評議員母体を決定していきたいとの発言があった。

承認された。

2) JSAF 表彰規程の変更

庄司理事・総務委員長から資料に基づき、JSAF 表彰規程の変更について提案があった。前回 9 月理事会において、現在の表彰規程に問題があることから、効率的に幅広く表彰者を推薦したいことを理由に、①年度内（新年会または 3 月評議員会）に実施時期を早める。②地域で活動されている指導者へ連盟指導者委員会と連携して候補者を推薦する。③外洋レース表彰基準を整備する。④各委員会との連携を強化する提案を協議した。

変更点は、財団法人日本セーリング連盟表彰規程第 5 条（表彰期日）を、「毎年最後に開催される評議員会と同日付けを以って表彰する」、連盟表彰規程細則第 1 条 3 項の優秀指導者賞・対象者に「地域のクラブの指導者（企業・学校等のクラブで指導経験 15 年以上の者）」を追記した。

上記より、平成 21 年度定期表彰を平成 22 年 3 月 14 日（土）評議員会において挙行予定とし、平成 21 年度定期表彰受賞候補者推薦の提出期日を平成 21 年 12 月 28 日としたとの発言があった。

柴沼理事から、定期表彰を挙行した内容を、広報委員会や各加盟団体と連携をとっていただき、マスコミや地方紙へ資料を配信する体制を検討していただきたいとの提案があった。

秋山副会長から、表彰の範囲を拡大することは、連盟表彰のステータスが薄れるのではないかと。また、感謝状はタイムリーに対応するもので、連盟表彰とは内容が異なるのではないかと発言があった。

庄司理事から、総務委員会では推薦された全員を認めるわけではなく、実績を踏まえた上で、対応を考えているとの発言があった。

栗原監事から、叙勲された方は、連盟功労賞などあるべきとの発言があった。

小山（泰）理事から、東京都ヨット連盟が、東京都体協ならびに文部科学省の推薦を受けて優秀スポーツ団体に表彰されたとの報告があった。

柴沼理事から、RYA では、レース運営者であるレースオフィシャルズの年度表彰がある。また、RRS 改定翻訳者への感謝状も検討していただきたいとの発言があった。

河野副会長から、基準を明確にするべきであるとの発言があった。

庄司理事から、基準を明確にして次年度検討するとの発言があった。

承認された。

3) メンバー登録制度（学生の範囲）

庄司理事から資料に基づき、メンバー登録制度（学生の範囲）の取り扱いについて提案があった。

平成 22 年度 4 月から、大学生の適用範囲を、①医学部・薬学部等の 6 年制の学部に通う大学生、②マスター・ドクターに進学している大学生、③留年している大学生、④社会人入学している大学生（MBA コース等）、⑤各種学校、専門学校に入学している学生、⑥高等専門学校の 4 年生以上の学生に適用範囲を拡大する。登録する団体の選択は、①外洋系を除く加盟団体のみ学生登録を認める。②登録する加盟団体の選択は、学校やクラブの所在地とするか、合宿所所在地や練習海面とするかは、各校・クラブ・個人の選択とする。今回理事会決定後、すみやかに加盟・特別加盟団体へ通知するとの発言があった。

承認された。

4) 公益法人改革検討プロジェクトチーム設置

庄司理事・総務委員長から資料に基づき、公益法人改革 3 法施行への対応について提案があった。

公益法人改革 3 法施行への対応について、公益財団移行認定申請へ向けた準備・検討を行うため、公益法人移行検討プロジェクトを設置する。現行の JSAF 事業目的及び事業区分、機関設計、組織運営、会計、財務基準、財産管理等の諸点について新法の観点から検証し、移行認定申請にあたり、必要と判断される場合には改定案を策定し、理事会・評議員会へ付議する。プロジェクトのリーダーを前田専務理事および副リーダーを庄司理事・斎藤理事とするとの発言があった。

宮崎理事から、財団法人から社団法人に移行する場合、現行評議員と社員総会ならびに理事の関係はどうなるのかとの質問があった。

庄司理事から、日本体育協会では社団法人移行の可能性があり、連盟も十分に研究・検討しておかなければならない。また、移行する際の最初の評議員選出について、文部科学省ならびに国土交通省に折衝した。内閣府公益準備委員会から発表されている

内容では、①中立した選定委員会の設置、②中立法人に依頼の方法があるが、省庁からは事前協議を求められているとの発言があった。

斎藤理事から資料に基づき、公益社団・財団法人に移行した場合の税務上のメリットについて、免税寄付金制度適用について大幅に変更されるとの発言があった。

庄司理事から、今後は公益か一般法人か、財団か社団法人か検討すると同時に、理事・評議員定数ならびに公益認定の説明を整理する必要があるとの発言があった。

前田専務理事から、理事各位にも公益法人改革を理解していただくように公益法人改革の入門書「新公益法人制度はやわかり」を購入していただきたいとの要請があった。

承認された。

<協議事項>

1) 沖縄・東海レース共同主催

坂谷理事から資料に基づき、2010年沖縄・東京レース共同主催について報告があった。

沖縄・東京レースが開催されなくなってから久しいが、日本最長外洋レースとして「沖縄・東海レース」を開催し、本格的な沖縄レース復活を目的に共同主催申請した。2010年4月29日沖縄・宜野湾沖スタート、三河湾・ラグナマリーナ沖フィニッシュとする。また、運営・事故・経費等に関する諸事項は、申請者において負担処理するものとし、JSAFには一切迷惑・負担かけないことを申し添えるとの発言があった。

小山（泰）理事から、参加艇予想はどの質問があった。

坂谷理事から、10艇以上を目標としているとの回答があった。

柴沼理事から、本格的な外洋ロングレースが10年間ない現状を鑑みると、JSAFとして支援できないかとの発言があった。

植松副会長から、ジャパンカップ2009が中止となったため、外洋予算から次年度へ流用することは可能ではないか。また、他の外洋レースの補助金も考慮したい。船舶検査を近海とすると、参加艇はJCI検査料負担が大きくなるとの発言があった。

坂谷理事から、安全確保を第一に近海とした。最低限の努力であるとの回答があった。

柴沼理事から、再来年以降もオフショアレースの継続性を考慮すると、JSAFは有形無形の援助を検討していただきたいとの発言があった。

植松副会長から、レース委員会外洋関係者で、JSAF援助を検討する方向性を考慮している。また、レース主催者責任問題とは別であるとの発言があった。

山崎会長から、艇長責任のみで開催は不可能か、共同主催の理事会採択は必要かとの質問があった。

坂谷理事から、沖縄レースは、全日本レベルの外洋レースとして理事会が承認したレースとなっている。10年ぶりの沖縄レースはJSAFと共同主催で開催したい方向で提案しているとの発言があった。

山崎会長から、チャレンジ精神に賛同し、共同主催に問題ないと判断し承認したいとの発言があった。

2) メンバー登録制度（シニア会員）

前田専務理事から資料に基づき、メンバー登録制度（シニア会員）について提案があった。

シニア会員制度は、①臨時会員、準会員、ファミリー会員、ゴールド・シニア会員、多年度会員、名誉・終身会員等、現状制度を拡張した新たな会員の位置づけと扱い、②学生身分だけではなく、アンダー22、18、15と年齢に応じた一般化の取り扱い、③外洋加盟団体における学生会員の取り扱い、④特別加盟団体と学生登録の取り扱いについての項目を、平成22年度以降の継続審議とするとの発言があった。

<報告事項>

1) 全日本470級選手権大会上告否認

増田ルール委員長から資料に基づき、大会の上告権利否認の承認について報告があった。

第38回全日本470級ヨット選手権大会兼第23回全日本女子470級ヨット選手権大会につき、大会主催者よりセーリング競技規則70.5ならびに日本セーリング連盟規程3.1に基づき、上告権利否認の申請があった。本大会では、大会最終日に上位10艇によるメダルレースが予定されている。メダルレースは、ISAFから発行されているADDENDUM Qに準じて、アンパイア制で行われ、上告の権利は否認されているとの発言があった。

2) レース委員会副委員長の交代について

前田専務理事から資料に基づき、平成21・22年度レース委員会副委員長の交代について、黒川レース委員会委員長からレース委員会副委員長（外洋）を小林昇氏から本田敏郎氏に交代するとの報告があった。

3) ワンデザインクラス計測委員会報告

前田専務理事から資料に基づき、IHC（In House Certification）セール計測システムの開始について報告があった。

IHC（In House Certification）計測とは、ISAFが指定したセールメーカーが生産したセールが、出庫する時点で基本計測が行われることである。9月14日以降の470及

び 420 クラスのセールは、ノースセールにおいて、IHC 計測システムが適用され、出荷されるすべてのセールは基本計測済のものとなっている。また、IHC を証明するセールは、ISAF から取り寄せている。将来、JSAF が ISAF に代わり承認できる資格を得るよう計画しているとの発言があった。

4) ISAF 総会報告及び ASAF フォーラム報告

戸張国際委員長から、ISAF 総会(韓国・釜山)及び ASAF フォーラムについて報告があった。植松副会長、前田専務理事が出席した。両名から ISAF 総会出席報告があった。

大谷国際委員から、カウンスル報告があった。東アジアでの日本の地位を確立していくには、ISAF 総会各コミティに派遣していただきたい。また、日本から IJ・IU の補強も課題である。ISAF の方針は、オリンピック種目継続を見据えて、①メディアへのアピール、②シングルハンドやボードセイリングなどの普及国を増加させるとの発言があった。

柴沼理事から、レース・ルールコミティでは、①RRS 施行 5 項目を改定して発行する。②メダルレースの救済は認めないと報告があった。ディペロップメント & ユースコミティでは、セーリングスポーツはビルダー含めて全体で発展させていかなくてはならないことを各国で検討するとの報告があった。

戸張国際委員長から、オリンピック艇種維持のために 470 クラスでは、アジアから国際レースの参加率を高める。との発言があった。

5) 2016 年五輪 IOC 総会の結果

前田専務理事から、2016 年五輪の IOC 総会での投票結果について報告があった。

10 月 2 日、コペンハーゲン IOC 総会で、2016 年五輪開催地が、リオデジャネイロに決定した。JOC は 2020 年招致に向けて戦略本部を設定したとの発言があった。

河野副会長から、今回残念な結果になったが、招致への多大なるご協力に感謝いたします。JOC、東京都ならびに東京都ヨット連盟には次回再チャレンジを要望したとの発言があった。

6) 全国安全指導者養成講習会報告

小山(泰)指導者委員長から、指導者委員会報告があった。

11 月 14～15 日、東京夢の島マリナーにおいて全国安全指導者講習会を開催した。山崎会長からのアメリカズカップ動向のほか充実した講習会内容で開催できたとの発言があった。

7) 新潟国体報告

前田専務理事から資料に基づき、新潟国体の報告があった。

平成 21 年 10 月 2～5 日、新潟県聖籠町で開催された。コンディションに恵まれて、56 レース消化との発言があった。

8) JOC 女性スポーツ委員会報告

倭レディース委員長から資料に基づき、2009 年 JOC 女性スポーツ担当者会議について報告があった。

平成 21 年 10 月 9 日、ナショナルトレーニングセンター大研修室において、JOC と各競技団体が「女性とスポーツ」に関する課題を共有し、解決に向けたネットワークづくりを目的に会議が開催された。JSAF レディース委員会として、スポーツ界への貢献に対する問題点と対策について、グループディスカッションに参加、女性の地位向上について、①国体におけるチャイルドルームにおける評価、②日本 470 協会アイデアの TV 会議システムについて報告したとの発言があった。

9) 平成 21 年度中間監査報告

斎藤財政委員長から、平成 21 年度連盟中間監査報告があった。平成 21 年 10 月 23 日（金）、野口孝史顧問会計士の連盟中間監査において、指摘された事項は特になかったとの報告があった。

10) 平成 21 年 10 月末予算管理月報

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 21 年 10 月末予算管理月報について報告があった。

11) 平成 21 年度（11 月 13 日現在）メンバー登録数報告

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度（11 月 13 日）のメンバー登録数について報告があった。総合計 9,932 名との発言があった。

12) 平成 21 年度臨時（第 2 回）理事会議事録（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度臨時(第 2 回)理事会議事録（案）について報告があった。

13) 平成 22 年度事業計画および予算作成依頼

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度事業計画および予算の作成について依頼があった。

14) その他報告

松山和興佐賀県連理事長および日本レーザー協会の大谷たかを氏から資料に基づき、

市民が作る 2009 年レーザーラジアル級ヨット世界選手権大会開催報告があった。

本吉譲治日本テザークラス協会会長から資料に基づき、2009 年テザー世界選手権大会の準備および実施状況について報告があった。

河野副会長から、地元とクラス協会の努力で日本で 2 つの世界が開催できた。大会運営者及び現場関係者の努力の結果であり、本会で御礼申し上げるとの発言があった。

<スタディ項目>

山田オリンピック特別委員会委員長および中村健次ナショナルコーチから、選手強化の取り組みについて、理事各位に説明があった。①実施済事業および年度内実施予定事業、②今後の選手強化、③平成 20 年度オリンピック特別会計決算内容詳細ならびに本年度予算、④和歌山ナショナルトレーニングセンター（NTC 競技別強化拠点）について発言があった。

<その他>

- ① 前田専務理事から、映画「海の金魚」後援について報告があった。
- ② 前田専務理事から、森繁久弥氏ならびに大儀見薫氏ご逝去について報告があった。
- ③ 松原理事から、JSAF2010 カレンダー作成と販売案内について報告があった。
- ④ 前田専務理事から、次回理事会および新年会開催について報告があった。
- ⑤ 宮崎理事から 11 月 2 日の大阪大学ヨット部の事故について報告があった。
- ⑥ 前田専務理事から、日本視覚障害者セーリング協会が NPO 法人になったこと、およびヨットエイドジャパンからパラリンピックなどを含む JSAF 支援の要請があったとの報告があった。
- ⑦ 柴沼理事から、中国ヨット協会からの要請で、「アジアディペロップフォーラム」に参加してきたとの報告があった。

平成 21 年度臨時(第 3 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 21 年 11 月 21 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 坂 谷 定 生

議事録署名人 理 事 宮 崎 史 康